令和7年度 牧之原市議会

全議員行政視察報告書 (友好姉妹都市長野県松川町議会親善訪問等)

- 自 令和7年8月21日(木)
- 至 令和7年8月22日(金)

視察先

- ◇ 長野県飯田市
 - ・リニア駅周辺
- ◇ 長野県松川町
 - 友好姉妹都市親善訪問
 - ・議会への住民参加について
- ◇ 土岐地球年代学研究所(岐阜県土岐市)

牧之原市議会議長 様

氏名 村田博英

TIT like to	人和 7 左
研修名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	 リニアは大規模な工事でありその概要は想像していた通りであった、5年以上かかる工事終了時の飯田市はもとより長野県全体の経済波及効果は予想をはるかに超えたものであろうか、楽しみである、地方自治の根幹は経済をどのように進めていくかにかかっている、友好都市、経済、防災を含めて助け合っていきたい。 懇親会で牧之原市の議会での課題は何かと聞かれた、議会をまとめることにより強い力が生まれる、公平性、平等性を常に念頭に、まとめていくように考えているが思うようにいかない、それが課題だと答えたが、松川町議会の皆さんは牧之原市議会は仲がよさそうだし羨ましいとのこと、隣の芝生はよく見えるようである、今後とも友好都市として継続していただけるよう願う。 浜岡原発下の活断層調査に協力しているようであり、確認をしてみたい、勉強不足を感じた、核融合発電も検討が始まっており安全性からみて現状とは格段の違いがあり委員会としてもテーマにするべきであると思う。

牧之原市議会議長 様

氏名	原口	康之	
~ ()	//] \ 🗀		

研修	名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研 修	先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の)目的	1 長野県飯田市 研修 リニア駅周辺工事概要説明 (バス車内視察) 2 長野県松川町議会 研修 議会への住民参加について 3 岐阜県土岐市 (東濃地科学センター) 研修 土岐地球年代学研究所

1 長野県飯田市

リニア駅周辺工事概要説明(バス車内視察)

長野県松川町の友好都市親善訪問という事だが、リニア中央新幹線長野県駅(仮称)の周辺隣接市町の松川町でも「リニア中央新幹線建設工事対策委員会」を設置して影響調査結果を踏まえ、様々な対応を協議検討をしているようだ。長野県駅(仮称)の建設中の立地市の飯田市工事現場と土曽川橋梁の橋脚の工事現場をバス車内で松川町 リニア対策係の担当職員から説明を受けた。全体の印象としては、この地域でリニア中央新幹線長野県駅(仮称)は、東京・名古屋間のほぼ中間にあり立地には地の利があり、県駅(仮称)周辺を含めて活性化など発展の可能性を感じた。しかし、橋梁・橋脚などのリニア本体や新駅周辺、新駅に伴う道路インフラ整備、などの工事が急激に進むことへの残土や乗り入れる工事車両による多様な問題や環境の問題・課題への対応も考えられると感じた。牧之原市でも富士山静岡空港周辺への新幹線新駅の建設が期待されている。市外への移動手段が限られている我が市にとっては必要性も感じる。これから牧之原市だけではなくこの地域の経済・観光などの産業全体の将来ビジョンとメリット・デメリットを検証・検討し、その対応策も検討して建設方向にいく事になれば良いと考える。

2 長野県松川町議会

研議会への住民参加について

友好都市親善訪問という事だが、コロナ禍もあり9年間交互訪問が途絶えていた

が、2期目の私も議員として初めての訪問だった。交流の状況については、相良町時代の昭和61年から続いており、令和8年10月には、40年の節目を迎える。牧之原市議会議員(14名)で大歓迎を受けたので松川町議会議員の皆さんの訪問を受ける時は、何らかのお返しの対応を考える必要があると考える。

懇談については、限られた時間であったが、(1)議会への住民参加についてと題し「議会と語る会(議会報告会)」の実施方法と内容について、牧之原市議会、松川町議会交互に発表説明した。その後、(2)質疑・意見交換の時間を割いて各議員、各市町議会の発表した部分やその他、自分の興味があることなど短い時間でしたが有意義な質疑・意見交換の時間になったと思う。ただ1点だけ松川町議会の坂本副議長と牧之原市議会の大石議員が欠席(双方病欠?)されたのが残念だった。

懇親会については、場所を「信州まつかわ温泉清流苑」に場所を移し、さらにリラックスして懇親を深め、議会と語る会(議会報告会)以外の議会の事や色々な話に花が咲き、さらに友好を深められたと感じた。翌朝も見送りに来ていただき議長をはじめ各議員からも感謝を述べた。全体の総括として良い友好都市親善訪問で、次に続く部分があり実り多き訪問だった。

3 岐阜県土岐市(東濃地科学センター)

土岐地球年代学研究所

日本原子力研究開発機構(JAEA)は、原子力に関する総合的研究開発機関として 日本で唯一で全国11か所の原子力に関する様々な研究活動を実施する機関の1 つが東濃地科学センターである。施設では、地層処分技術の信頼性向上のための研 究開発として、「地層科学研究」を行っている。高レベル放射性廃棄物の地層処分 は、全議員視察で、訪れた青森県六ケ所村の高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センタ ーで 30~50 年程度冷却のために貯蔵管理後の処分として宇宙・海洋底・氷床・地 表長期などがあるがどれも禁止や問題があり、現在1番有効な方法と考えられてい る。1962 年に土岐市でウラン鉱床発見、65 年東濃深鉱事務所開所、86 年東濃鉱山 で研究開発を開始その後、2010年閉山、02年瑞浪超深地層研究所開所、翌0 3年立抗掘削工事着工研究終了後22年埋め戻し完了。土岐事務所研究開始から大 型年代測定器導入を経て2014年土岐地球年代学研究所機器分離棟完成、名称も 変更。平成28年の視察では、立坑(地下500m)を視察した様だが、今回は埋 め戻され無かった為、機器分離棟にて大型加速器質量分析装置の説明を受けた。説 明によると自然界の炭素同位体 12C が 99%、13C が 1%、14C が約 1 兆分の 1 の量 で存在して 140 の量は 5370 年で半減し、現代から数万年の範囲では年代測定では 最も精度が高い。例えば、地層を段階ごとに取り出し一定の炭素にて、大型加速器 分離装で分離した物を施設内で調べると 14C の数値測定ができ、炭素になる物質な ら測定可能。こうしたデータを残し比較したり得られたデータの研究結果などの基 礎研究を行っている施設だと概要と共に説明を受けた。現在、最終処分場施設の設 置可能性を調査する区域の公募を開始、北海道寿都町及び神惠内村と佐賀県玄海町 で文献調査を開始とあるが、安心安全を最優先に進めばと思う。また、核燃料サイ クルには、ウラン濃縮工場や再処理後廃棄物最終処分場の課題があり。早期の問題

解決を望みたい。	また、	安定したエネルギー供給に繋がれば良いと思う。

牧之原市議会議長 様

氏名 中野 康子

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	○長野県松川町議会 松川庁舎玄関前から町長はじめ副町長、教育長そして議会の皆様、職員の皆様の拍手で迎えていただき、いつもながらの友好姉妹都市での温かな歓迎をいただいた。 旧相良町時代からのお付き合いであり、牧之原市となった折、友好姉妹都市の提携に当時の西原市長と望んで20年目となった。 市、町それぞれ海と山の持ち味を大切にこれからも市民と共に歩み続ける友好関係が続くことを願う。 議員間の懇談において、松川町の新たな取組として、女性政策サポーターの促進のお話があったが、令和6年3月から7月まで12名のサポーターで6題の提言書を提出とのことであるが、わずか5か月の間に6題の提言書を出すということに驚いた次第である。 私達は、以前は2年間(現在は1年間)かけて政策課題に取り組み、提言書を提出までは市民会議を何回か行い、当局から話を聞き、提言にまとめていくのだが、6題というので中身をお聞きしたが、表題だけだったので内容まではよく理解できなかった。 もう少し、詳しく説明があるとよいと思ったが、どのようにサポーターが関わっていたのかを聞きたかった。 ○土岐地球年代学研究所 地層科学を研究している施設を見学させていただいた。何年か前に瑞浪市の瑞浪地層研究所で、地下500メートルに降りて、地層の変化を目の当たりにして驚いたことを思い出した。 その地層用地も研究が済んで、すでに埋められ、後はコンクリートの撤去のみということであった。 土岐地球年代学研究所は、未知の微生物の働きを解明し、地下環境の長期安定性を推定するという役割や、隠れ活断層の検出の手が

かりを発見し、地震発生前の隠れ活断層の推定が可能となったことなど、地層の総合的な研究をする拠点である。 黒板等にかかれた化学式やその化学のお話を聞かせていただいたが、さっぱり理解できず説明してくださった方に申し訳ない思いでいっぱいだった。

牧之原市議会議長 様

氏名 太田佳晴

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	

飯田市 リニア駅周辺視察

長野県民、また飯田市地元の皆さんの多くは、リニア中央新幹線の開通と長野県駅の開駅を心待ちにしているものと考えますが、南アルプスを源流とする大井川の下流域に住む私たちにとっては地域の将来に不安を抱え、現在の状況では積極的にリニアを推進していく気持ちになれないのは正直なところです。

バスの車中からの景色では、まだリニア駅の形は見えていませんでしたが、大手のショッピングストアー等が立ち並んでいる光景を見ると、このまちは将来その姿を一変させるのだろうと想像しました。

たとえ離れたところであろうと、地域の発展はたいへん喜ばしいことではありますが、リニア新幹線が静岡県にとって何のメリットがあるのかを考えたとき、決定当時に静岡県の決定権を持った権力者の人たちは、何を考えてあのようなルートを認めたのか信じられない思いがつのります。

遠い将来まで地域に禍根を残さない解決を望む思いが強まった視察でした。

松川町役場親善訪問 · 研修

久しぶりの姉妹都市への親善訪問でしたが、旧相良町から続く長い歴史の上に築かれたまちの関係は、たとえ時間は置いても深い絆で結ばれ繋がっていることを強く感じ、平成 15 年の秋、町議会議員として初めて松川町を訪れ、松川町議会の皆さんと交流したことを懐かしく思い出しました。

こうして、市長、当局、議会が交流することによって、市民、町民の皆さんの人事交流が更に深まっていけば、議会の親善訪問の意義が果たせることになるので、 今後も定期的な交流を進める必要性を改めて感じました。

研修は、両議会における議会報告会についての研修でしたが、松川町議会の議会報告会では、報告会終了後に、意見の整理・検討・町長への意見書等提出を行っていました。

現在の牧之原市議会の議会報告会においては、要望等の議会報告会にふさわしくないと思えるような市民からの意見は、封じ込める考え方の元に進められています。

しかし、議会報告会は市民の多様な意見を聞くことが本来の目的であり、松川町 議会のように、なるべく多様な意見を議会に寄せていただき、それを仕分けして対 応していく考え方の方が、議会報告会本来の趣旨であるように思える。

議会報告会の本来の目的を再確認する必要性を感じた研修でありました。

岐阜県土岐市 土岐地球年代学研究所

土岐地球年代学研究所は、高レベル放射性廃棄物の地層処分を安全に行うために、途方もない労力をかけて地層の年代測定を行う機関であるが、地球上の大陸は、何十万年という、とてつもない長いサイクルの上で僅かずつ移動を続けながら形を変えています。

従って、高レベル放射性廃棄物の地層処分は、現在では最も安全で有効な処理方法と考えられていますが、遥か彼方にある地球の未来を考えると少しの不安も覚えます。

現在の人類が持つ科学技術では、リスクは拭いきれないにせよ、安定的な電力の 確保は原子力発電に頼らざるを得ない状況にありますので、様々な研究の積み重 ね、技術の進歩によって、真に安全で安心な電力確保の可能な時代が訪れることを 期待します。

牧之原市議会議長 様

氏名	植田博巳	
八石	他田田田	

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間 令和7年8月21日(木)~8月22日(金)	
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	友好姉妹都市親善訪問・交流 議会への住民参加について

1 松川町との交流経緯

松川町との交流は、昭和61年10月2日、旧相良町が姉妹都市協定を結んだことから始まりました。以来、サッカーや野球の少年団が「海のまち相良」と「山のまち松川」を舞台に毎年交互で交流し、子どもや保護者同士の絆を深めてきました。物産展や自治会との交流も盛んに行われています。

平成 18 年 10 月 1 日には牧之原市として姉妹都市協定を結び直し、平成 23 年 7 月 11 日には「災害時の相互応援協定」も締結。長い歴史の中で交流は続いています。

2議会との交流経緯

平成27年には松川町議会が牧之原市を訪問、翌28年には牧之原市議会が松川町を訪問し、課題の意見交換を行ってきました。今回もその一環として、牧之原市議会が松川町を訪れました。

3 交流

牧之原市からは議員、市長・行政部局、松川町は議員、町長・行政部局との交流 の後、両議会において「議会への住民参加について」を議題に意見交換を行った。

4長野県飯田市【リニア駅周辺】

車窓からの視察ではありましたが、広大な土地での開発がすでに動き出しており、地域の期待が非常に高いことを実感しました。過疎地域であってもリニアによって大きな発展が見込まれる様子が印象的でした。

5議会への住民参加について意見交換

牧之原市議会からの報告

- ・平成22年度から続く議会報告会の変遷
- ・平成6年度から始めた高校生への議会報告の経緯と内容

松川町議会の取組み

- ・議会による広報公聴活動の充実・発展は、「議会と住民とのオープンなコミュニケーション」「住民への説明責任」「議会活動の透明性」の確保のため、広報公聴常任委員会を設け、広報と広聴を分科会に分担して実施(議会広報分科会及び広聴分科会設置要綱による)
- ・「議会と語る会」(旧・議会報告会)を地域や団体対象に実施、住民からの要望にも応じて開催

特徴と課題

- ・開催時間は2時間、報告は全体報告、報告時間を短縮(30分から17分まで短縮)、意見交換の時間を拡大(1時間)、担当は広聴委員
- ・区を限定せず全地域で開催し、住民参加を広げている
- ・課題は「女性・若者の参加が少ない」「住民同士が議論する場がない」「参加 団体の減少」など

新しい取組み

- ・LINE サポーター、議会カフェ
- ・女性議員の増加のため女性模擬議会※立候補した者なし
- ・女性政策サポーター(令和6年には12名が6つの提言を実施)

今後の方向性

- ・双方向のコミュニケーションを重視
- ・開催形式の柔軟化・オンライン導入
- ・SNS やアンケートの活用
- ・「参加するメリット」の明確化
- 少人数意見交換

これらについて意見交換が行われ、松川町の積極的な取組みは参考となり、当市でも検討すべきものと感じました。

6 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】

地質環境の変化を研究する最先端の研究所を訪れました。断層や火山活動などを対象に、最新の分析機器を使った年代測定や技術開発が進められており、日本の高度な研究の一端に触れることができました。この技術により、原子力廃棄物の深層

埋設技術の進展にも結び付くことが期待されます
7 考察 松川町との歴史ある交流は今も息づき、議会同士の交流でも多くの学びがありま
世別町との歴史ある交流は「も思うさ、議芸町工の交流でも多くの子のかありました。特に松川町の「広報・公聴を分担した取組み」は大変参考になりました。 牧之原市議会でも、広報特別委員会を「広報・公聴常任委員会」とすることで、市 民への説明責任や意見聴取を常時行える「開かれた議会」に近づけると考えます。 また、リニア駅周辺視察はリニアによって大きな発展が見込まれる様子が印象的で
あり、土岐地球年代学研究所では、地質環境の変化を研究する最先端の研究と日本 の高度な研究の一端に触れることができました。

牧之原市議会議長 様

氏名 濵崎一輝

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 リニア中央新幹線長野県駅(仮称)の現在の進捗状況と、周辺 環境への影響などを確認。 長野県松川町議会 友好姉妹都市への親善訪問により、両議会の親睦を図る。 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】 日本原子力研究開発機構の一つである、東濃地科学センターで 行われている研究と役割を知る。

1 長野県飯田市【リニア駅周辺】

リニア中央新幹線については、通過する自治体により温度差がある。静岡県においては駅が新設される訳でもなくただ通過するだけであり、トンネル工事による水源の減少や水枯れ、自然環境への影響など様々な課題や問題を抱えており、なかなかウエルカムモードではない状況である。

しかし、長野県においては、新幹線新駅が建設されるということで、駅が建設される地元周辺の自治体においては、早期開通を望む熱い声が多いとのことで、静岡県との温度差を感じた。

実際に車窓から駅周辺及び、橋りょう工事の建設現場を見てみると、その規模の大きさと共に、まちの周辺環境が様変わりしていく様子と期待度の高さが伺えた。同じ事業であっても、その立ち位置により関係者の反応は様々であるということを、改めて実感した。

2 長野県松川町議会

松川町とは、牧之原市の前身である旧相良町の時代から姉妹都市として交流 が始まり、その後牧之原市として改めて姉妹都市協定が締結された。

牧之原市から松川町への訪問は、平成28年8月に行われて以降久しぶりの

訪問となり、両議会のとっても大変貴重な機会となった。

交流懇談会では、「議会への住民参加」というテーマで、議会報告会の実施 方法と内容について、それぞれの議会から発表があり、その後質疑応答や意見 交換が行われた。

議会報告会の名称や実施方法、対象とする団体など異なる点が多々あり、それに伴う具体的な課題を共有することができた。

市民との意見交換会(議会と語る会)では、その場で出てきた意見を5つに 分類し、どこで検討をするのか(常任委員会、議員協議会)、町長に提案する など、その後の対応を明確にしている点は大いに参考になった。

また、懇親会では、お互いの議会運営やまちの課題など多義に渡り情報交換ができ、有意義な親善訪問となった。

3 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】

この土岐地球年代学研究所は、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構の一つである、東濃地科学センターの中の研究施設となっており、地層処分技術の信頼性向上のため地層科学研究をおこなっている。

具体的には、高レベル放射性廃棄物の地層処分を見据え、地層処分の長期的な安全性にとって考慮すべき重要な自然現象である「隆起・浸食」、「地震・断層運動」、「火山・火成活動」に関する調査・予測技術や、それらの基盤技術となる年代測定法の高度化、並びに現在や将来の地下水の流れ方など、地下環境の状態を評価・予測するための調査解析技術などを開発する地層科学研究を行っている施設である。

中でも、地層の年代測定を、加速器質量分析装置(堆積物の放射性炭素年代法)、四重極型質量分析装置(基盤岩のウラン・トリウム・ヘリウム年代法)、希ガス質量分析装置(断層粘土のカリウム・アルゴン年代法)、堆積物の火山灰層位法など、調べるものに合わせて、様々な年代測定法を用いて研究をしているということで、大変関心させられた。

今回、このような専門的な研究施設を見学させていただき、この施設の重要性や役割を知ることができ、国民の命を守る上で非常に欠かせない施設であることが確認できた。

牧之原市議会議長 様

氏名 種茂 和男

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	長野県松川町町議会では、長年にわたり友好姉妹都市として交流をつづけてきた関係を一層深めるとともに、地域振興策や議会運営の実際について学び、今後の議会活動に活かすことを目的とする。飯田市におけるリニア中央新幹線関連施設周辺の視察では、大規模プロジェクトが地域社会や産業、まちづくりに及ぼす影響を現地で確認し、地域活性化や持続可能なまちづくりに向けた具体的な知見を得ることを狙いとする。さらに、土岐地球年代学研究所訪問では、地球科学分野における最新の研究成果の測定技術を理解し、科学的知見を地域教育や環境理解の推進に役立てるとともに、将来世代への学習機会の充実につなげることを目的とする。これら三か所での研修を通じ、地域の発展や教育文化の向上に資する幅広い視点を養う。

1. 長野県飯田市【リニア駅周辺】

飯田市リニア駅市周辺を視察し、開業に向けた地域活性化の課と可能性を学んだ。 牧之原市としても、将来のリニア開業を契機に広域的な交流人口拡大を視野に入 れる必要がある。特に空港や高速道路との結節点を生かした交通アクセスの強化、 地元産業や観光資源との連携による地域づくりを推進し、持続可能な発展を目指 す。今後、官民協働で具体的な戦略を検討していきたい。



2. 長野県松川町議会

松川町議会親睦交流を通じて、双方の議会活動や地域課題への取組を共有することで多くのきずきを得ました。まず、議員一人ひとりの役割や住民との対話姿勢が議会全体の信頼につながることを再認識した。また人口減少や高齢化といった共通課題に対し、各議会で特色ある取組がなされており、相互に学び合う姿勢が重要であると感じた。さらに議会の活性化には情報発信や住民参加の仕組みづくりが不可欠であり、若い世代の関心を高める工夫も求められる。今回の交流は、議会の在り方を見直す良い機会となり、今後の活動に活かす示唆を多く得ることができた。



3. 岐阜土岐市【土岐地球年代学研究所】

岐阜県土岐市にある地球年代学研究所を見学し、最新の研究内容や今後の取り組みについて理解を深めた。同研究所では鉱物や堆積物に含まれる微粒元素や同位体の分析を通じて、地球の形成過程や気候変動の歴史を解明している。特に、ウラン・鉛年代測定やジルコン結晶の解析などの精度の高い年代測定に力を入れており、地質学や考古学の分野での応用が期待される。今後は国際的な共同研究を拡充し、地球環境の長期的な変動や自然災害のリスク評価にも成果をつなげる方針のようです。こうした取り組みを通じ、地球史の解明のみならず、持続可能な社会づくりにも寄与していくことも強調されていた。



牧之原市議会議長 様

氏名 松下 定弘

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	1. 長野県飯田市リニア駅(仮称長野県駅)建設中の現場を車窓から見て大きく変化する景色を確認 2. 長野県松川町議会へ友好都市である松川町役場へ訪問し、議会報告会の内容確認と懇談を行い友好を深めた。 3. 岐阜県土岐市にある「土岐地球年代学研究所」へ訪問し、取り組んでいた研究施設を見学した。

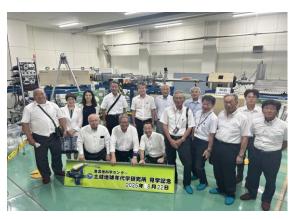
- 1. 長野県飯田市リニア駅周辺(仮称リニア長野駅)建設見学
 - リニア新幹線の工事は既に始まっていて、今回の見学したところは、東京方面から名古屋方面の飯田市内を通る天竜川やその周辺の工事個所を車窓から見学しました。阿島北高架橋。阿島トンネル、壬生沢川高架橋区間の厄800m区間と高速で運行するためリニア通路(線路)では、「防音防災フード」で囲われた建設になります。横幅16mと、高さ5.8mと言った大掛かりな工事となります。今回の見学したところは高架橋区分の土台作り建設個所を見学しました。本当に大掛かりな工事と工期となります。
- 2. 友好都市である長野県下伊那郡松川町(まつかわまち)役場に訪問しました。 人口:11,864人(令和7年8月)世帯数:4,550世帯(令和7年8月) 面積:72.79K㎡ 主要産業:工業・農業(特に梨・リンゴ等の果樹栽培) 今回の視察研修のメインは、松川町訪問にあります。

松川町が町施行30周年を記念して「海が見える町と姉妹都市計画」を昭和61年10月に旧相良町と交流のあった松川町助役が締結された。その後、松川町が町施行50周年の記念式典に(当時)西原市長が参列し、(当時)松川町の滝口町長が「盟約書」をそれぞれ署名、調印して姉妹都市が締結しました。

また、災害時等の相互応援に関する協定の締結も行い(平成23年7月11日) 松川町と牧之原市との交流を深めていましたが、コロナの時期もあり交流も昨年 ごろから再開されました。1期生の自分は、今回初めての友好都市訪問となりま した。松川町議会との研修会では、「議会と語る会」「議会だよりモニター制度 の取り組みと成果」などについて、牧之原市と松川町議会の方たちと研修を行い ました。松川町議会議員は、14名ですが、市民への議会報告は、熱量をもって 市民へ伝える工夫をされていました。例えば、女性を中心とした報告会を立ち上 げ、女性のための議会を運営させて提言を行い実施する事でした。こうした取り 組みは興味もあり、参考にしたいと思いました。

常任委員会は、「総務産業建設委員会」「社会福祉委員会」「議会運営委員会」 のそれぞれ7名による運用を行っています。牧之原市と同様です。特別委員会で は、「リニア対策特別委員会」もあることから、リニア新幹線に対する強い思い を感じました。





3. 「土岐地球年代学研究所」研修見学

岐阜県土岐市にある国立研究開発法人日本原子力研究開厳発機構「東濃地科学センター」へ2日目の午後訪問見学しました。

「地層を科学する」一言で言うと、訪問した研究所の取組んでいる内容となります。ご説明頂いた装置や機器について理解するには厳しいほどの単語や数式があり、自分のような凡人にはただ聞くのみで、理解できませんでしたが、要は、東濃地科学センターでは、地層処分技術の信頼性向上のため研究開発として、我が国の地層処分(原子力から出たプラトニウム処理)の長期の安定性に重要な「隆起・浸食」「地震・断層運動」「火山・火成活動」に関する調査・予測技術となる年代測定の高度化や現在と将来の地下水の流れ方環境の評価や予測をするための調査解析技術を開発する「地層科学研究」を行っています。

牧之原市議会議長 様

氏名 木村正利

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	(1) 友好姉妹都市親善・交流 (2) 議会への住民参加について

1. 長野県飯田市

松川町職員の方の案内にて、リニア中央新幹線長野県駅周辺、また、天竜川高 架橋工事の現場を車中より見学。

実際の工事の進捗状況は開通までかなりの時間を要すると思うが、確実にリニア中央新幹線は進んでいると感じた。

静岡工区の水資源課題もあるが、早く開通することを願う。





(2) 長野県松川町議会交流

北沢町長、米山町議会議長、議員の皆様の熱烈歓迎には驚かされました。 懇談会では、牧之原市の議会報告会、市民会議など議会運営委員長より説明 し、後半については松川町の取組などを説明受けた。

松川町の人口は、11,864人。牧之原市の1/4の人口であり、主産業は工業と農業に支えられる点は牧之原市と似ている。

松川町の町長は、今回の宿泊先の町営清流苑の支配人を長年務められていたことを聞き、おもてなしの所作はここからきていると感動した。

牧之原市のおいても、物産センター「よってけ市」は市の運営の中、松川 町の営業方法(特に、おもてなし)は参考にするべきである。

(3) 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】

東濃地科学センターは、初めての視察であった。

もともとウラン鉱山のあった経緯から、1965年に東濃地科学センター が出来たこと。

以後、高レベル放射性廃棄物の地層処分の研究をしている。日本原子力研究 開発機構の研究施設としての位置づけも理解できた。

施設内の地質環境の長期安定性に関する研究としての加速器質量分析装置 (AMS) による炭素 14 測定の装置説明及び炭素 14 の説明などは半分ほどしか理解できなかった。然し、日本の研究も応用分野でも、大学なども利活用しながら研究をしていることを知る貴重な体験であった。

(総評)

- ① リニア中央新幹線ルートは、東京(品川)、神奈川、山梨、長野、岐阜 名古屋と本当に品川、神奈川、名古屋以外は、山の中を通ることが理解できた。
- ② 松川町の議会だよりから地域に密着した様子が伺え牧之原市においても 参考にして行きたい。また、今後の松川町との交流は、山の幸と海辺の幸を交流を進めて観光資源交流を図ることが急務である。

- ③ 町運営の宿泊施設の経営について具体的に手法は学んで行きたい、
- ④ 土岐地球年代学研究所、東濃地科学センターについては、最先端技術を駆使しての研究を感じることが出来て感動した。

研究成果が、高濃度放射性廃棄物の処理に生かせる様に繋げて欲しい。

牧之原市議会議長 様

氏名 加藤 彰

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	友好姉妹都市長野県松川町議会親善訪問 (1) 議会への住民参加について (2) リニア中央新幹線長野県駅(仮称)周辺視察 (3) 土岐地球年代学研究所視察

(1) リニア中央新幹線長野県駅(仮称)周辺視察 〈説明者〉

松川町建設水道リニア対策課リニア対策係の担当者様 〈内容〉

- ① 別添資料(略)を用いて説明された。 リニア中央新幹線長野県駅(仮称)新設イメージ図 中央新幹線天竜川橋りょうほか新設 ほか
- ② リニア中央新幹線の長野県駅(仮称)は、長野県飯田市の上郷飯沼付近に建設予定。その付近について現場工事中の箇所をバスの車窓から見学した。松川町は長野県駅周辺の地域ではない。駅の工期は当初の予定より延期されており、2031年(令和13年)12月となる見通し。飯田市と松川町は隣接しておりリニア中央新幹線が開業すれば、松川町からも広範囲へのアクセスが向上すると期待されている。
- ③ 松川町における発生土を活用した事業について 中央新幹線建設工事に伴うトンネル掘削土(発生土)は、地元地域の発展につ ながる形で有効活用。松川町は、「前河原道路新設事業」への活用など。

(2) 令和7年度牧之原市議会・松川町議会 交流懇談会 議会への住民参加について

「議会と語る会(議会報告会)」の実施方法と内容について

- ① 牧之原市議会報告会について
- 報告会は、平成 21 年 9 月「牧之原市議会基本条例」第 6 条に基づき平成 22 年 度から実施している。
- 内容は、予算又は決算。各委員会の活動報告。報告への質問等。平成22年度から28年度までは、上記報告とその報告への質問等。平成29年度からは、報告に加えて2部として意見交換会を行う。令和4年度からは、ワークショップ形式を導入。参加者に偏り(女性や若者が少ない)があるため、令和6年度からは、市内高校(相良、榛原)において議会報告会を開催。
- 平成22年度から令和7年度までの16年間、議会報告会を継続開催。この間、開催月は、5月開催と10月~11月開催、そして5月と11月開催。5月開催は9回。10月~11月開催は4回。5月と11月の2回/年度は、1回。開催場所は、2回、4回、6回/年度。コロナ禍→WEB開催は1回。誌面報告は、1回。
- 今後に向けて・・令和6年度から始めた高校生への議会報告会の内容充実。女性や若者の参加者を増やす工夫(WEB等)する。開催回数を増やすことを検討。報告会周知方法の検討。意見交換会のテーマ設定の検討。意見交換会のやり方の検討。
- ② 松川町議会報告「開かれた議会を目指して~住民コミュニケーション戦略~」
- 根拠については、松川町議会基本条例、松川町議会委員会条例、松川町議会広報分科会及び広聴分科会設置要綱に基づく開催。
- 議会と語る会(議会報告会)は、広聴の分科会が担当している。平成24年から27年度までは名称を議会報告会とし、平成28年度からは議会と語る会と名称変更。
- 語る会の意見等は、各常任委員会と議員協議会で検討して分類。その結果を町長へ提出(意見書、要望書、提言書)。語る会の課題(女性若者の意見を聞く場がない、住民同士の議論の場が少ないなど)。広聴分科会の新たな取組みについて(LINE サポーター、議会カフェ)。議会改革推進会議による新たな広聴に係る取組み(女性模擬議会、女性政策サポーター)。
- (3) 土岐地球年代学研究所(岐阜県土岐市)
- ① 研究所で進める研究について

地層処分にとって安定な場所を選択するために必要な 3 つの研究を実施している。(・自然現象の影響のない安全な場所を探す調査技術を作る。・選んだ場所が将来にわたって安全かを確認する技術を作る。・過去の活動履歴を知り次の活動を予測するために必要な技術を作る)

② 役割

既存の原子力施設の安全対策の更なる向上に貢献するため、地球科学に関する新たな知見の創出と中~長期の自然災害のリスクの予測・評価に係る研究開発を進め

ている。

③ 年代測定技術の開発

主要研究設備(加速器棟)加速器質量分析装置の見学。

堆積物中の植物片から炭素を抽出し、加速器質量分析装置を用いて分析することで、地層の堆積年代を求めることができるなどの説明を受ける。

〈所感〉

議会報告会について

- 両市町は、「議会基本条例」により、議会報告会の開催を義務付け、制度化している。共通した主な課題としては、若者と女性の参加促進が挙げられる。松川町議会では、議会カフェや女性模擬議会、女性政策サポーターの取り組みを新たに始められ、成果を上げられている。本市議会では、高校生を対象に議会報告会を令和6年度から始めている。松川町議会では高校生を対象とした報告会を行いたい意向があるようであるが、実施できていない。ほか課題としては、参加者の減少と固定化が挙げられる。
- 本市議会では、ワークショップ形式を意見交換の場では導入しているが、議会と住民が双方向の対話を行うには、このワークショップ形式は有効であると考えている。しかし、ワークショップ形式に消極的な議員、住民も多くいるのが現状であると感じている。
- 議会報告会(意見交換会)の開催方法については、対象者を地域別にするのか、 テーマ別にするのか。会場配置を対面式か、ワークショップ形式か。内容は、 報告中心か、報告と意見交換会にするのか、意見交換中心にするのかなど、よ り良い形は何なのか。そして何より重要なのは、住民の皆さまから出された意 見などを成果につなげていけることだと考えています。
- そのためには、よく言われている「政策サイクル」を回すことになります。議会報告会等から政策のタネを掬い上げ、議員間討議を踏まえ、政策提案、提言に結び付ける。この度の視察研修を通じて、改めて議員間討議の充実を図っていくことが必要であると感じました。

牧之原市議会議長 様

氏名 名波 和昌

研修	名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の	期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研修	先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の	目的	(1) 友好姉妹都市親善訪問・交流 (2) 議会への住民参加について

1 長野県飯田市【リニア駅周辺】

建設現場を直接歩いて見学できると思っていたが、安全配慮の面からバスの 中からの見学と説明となった。

立地的には、ちょうどアルプスの狭間となっている。このような大プロジェクトができると、周辺への経済効果は計り知れないと推測する。隣接している松川町への良い影響も相当ではないかと推測する。

当市にあっても、新幹線空港新駅構想があり、これが実現することによる経済効果や市民の利便性は計り知れないとあらためて認識した。

2 長野県松川町議会

松川町議会、当市議会のそれぞれの議会報告会について、現状と意見交換を行い、 両議会ともに同様な課題をかかえていることを認識した。

ただ、議会の広報に関しては、松川町の場合「広報公聴常任委員会」が設置されており、議会広報誌、報告会と委員会のなかで役割分担しており、かねてより自分が構想していた内容で大変意義深いものであった。

また、議会報告会では、意見交換会を従来より拡大し60分間とり、町民の考えを

聞ける時間を設定してることが妥当と思えた。 課題として、

- ・自治会離れるによる区への負担
- ・多くの住民の意見を聞く場がない
- ・女性、若者の意見を聞く場がない
- ・対象団体数の減少
- ・住民同士の議論の場が少ない
- ・パンデミック時の対応

があげられたが、その改善策として、広聴関係では

- ・LINEサポーター(令和5年~令和6年15人が登録し要望書提出)
- ・議会カフェ 令和7年 20人参加
- ・女性模擬議会(令和5年7月31日(日)11名の女性が登壇)
- ・女性政策サポーター(令和6年3月~7月 12名のサポーター6題の提言書を提出)

を新たに実施し、効果を上げている。

また、広報 (議会報告会) 関係では、

- ◆住民へ情報を伝え、住民の声を聞く
- ◆双方向のコミュニケーション活動が重要

ととらえ

- □少人数意見交換会の開催
- □住民参加型イベントとの連携

のため

- □開催形式の柔軟化と多様化
- □住民への周知方法の改善と魅力的な情報発信
- □オンライン形式の導入
- □議会だよりやホームページに加え

YouTube、SNS を活用した情報発信◎事前アンケートや意見募集の実施

□参加メリットの明確化

を進めている。

広報・広聴ともに当市議会にとして大いに参考になり、取り入れられるものは実現 したい。

3 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】

当研究所は、日本原子力研究開発機構の一機関であり、高レベル放射性廃棄物の地層処分に関連する調査研究をおこなっている。

内容が専門的過ぎて、自分にはなかなか理解が深まらなかったが、現在全国ある原 子力発電所から発生する廃棄物の地層処分地などの選定には必要不可欠な研究で

あると認識した。	
今後さらなる廃棄物の発生が想定されるなか、国民の安全と安心のために十分	よ調
査研究を望みます。	
J	以上

牧之原市議会議長 様

氏名 ____ 絹 村 智 昭

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	 リニア新幹線駅工事の進捗状況を確認し、リニアについて見識を深める。 牧之原市と友好姉妹都市の長野県松川町との連携を確認すると共に、お互いの議会報告会の取り組みを発表し、今後の議会活動に繋げる。 土岐地球年代学研究所での研究を視察し、放射性廃棄物の最終処分について見識を深める。

1. リニア新幹線駅について

リニア中央新幹線長野県駅(仮称)周辺の工事を車中より町職員の説明を受けながら見学をしました。リニア駅周辺では二車線にしていくための整備が進められています。そして、リニアが通る橋梁を建設中でありました。完成には、まだまだ時間がかかるそうですが、ここまでできているんだと感じました。

2. 長野県松川町議会~議会への住民参加について~

「議会と語る会(議会報告会)」の実施方法と内容について懇談しました。松川町議会では、今までは議会運営委員会が中心となり活動してましたが、H28年から広報広聴常任委員会分科会が担当しています。「議会と語る会」では、全地区を対象とし、若者や女性の団体にお願いし、意見交換に時間をかけています。出た意見は整理・検討し町長に提出しております。また、議会カフェや女性模擬議会、女性政策サポーターを取り入れており、開かれた議会を目指す当議会でも大変参考になったかと思います。

3. 土岐地球年代学研究所

この研究所では原子力発電に伴い発生する高レベル放射性廃棄物の地層処分 事業や国の安全規制に必要となる科学的知見や調査・評価技術を提供するため、地質環境の長期安定性に関する研究を進めています。日本の地質環境とし

て火山、活断層、浸食等があり、地層処分にとって安定な場所を選択する考;	え
が必要であります。地下深部のマグマ分布を探る調査技術を開発しており、i	咼
去100万年前からの変化のモデルを作成し、過去の変化をもとに、未来を ⁻	予
測する技術も開発しています。多くの大学等と共同研究しており、地層処分に	2
対する国民の信頼を得られるよう、更なる高度な研究技術に取り組んでいって	
ほしいと思います。	
	1

牧之原市議会議長 様

氏名 _ 谷口 恵世

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修	
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)	
研 修 先	1 長野県飯田市【リニア駅周辺】2 長野県松川町議会3 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】	
研修の目的	 友好姉妹都市(松川町)との親善訪問・交流 議会への住民参加(傍聴環境、広報・情報発信、議会報告会、デジタル活用等)に関する意見交換 広域インフラ整備の動向把握:リニア中央新幹線新駅および天竜川橋りよう工事の現場視察 科学的知見の行政応用の検討:土岐地球年代学研究所における地質・年代測定の取組を学び、公共政策(防災・インフラ・環境)への活用可能性を探る 	

松川町の概要(要点)

- **所在地**:長野県南部・下伊那郡の最北、伊那谷のほぼ中央。東西約 21km/ 南北約 6km、**面積 72.79 k㎡**。中央を**天竜川**が南流し、東西に段丘地形が発達。
- 人口:11,864人・世帯数4,550世帯(令和7年8月1日現在)。
- **産業・土地利用**:西側は住宅・商店街・工業団地、**果樹栽培(梨・りんご等)**が盛ん。東側は工業団地・水田、傾斜地で水稲・畜産・小梅など。
- 交通:中央自動車道松川 IC、JR 飯田線伊那大島駅。
- 友好·姉妹関係:
 - 。 1986年10月2日: 旧相良町(現・牧之原市)と友好姉妹町提携。
 - 。 2006 年 10 月 1 日:市町村合併を経て、**牧之原市−松川町で姉妹都市** 締結(継承)。

訪問・視察内容

1. 松川町役場/議会(住民参加に関する意見交換)

テーマ:「開かれた議会を目指して~住民コミュニケーション戦略~」 松川町議会では、広報公聴常任委員会を設置し、広報・広聴活動を体系的に推進し

ている。

- (1) 広報分科会の取組
 - 議会だより:年4回発行
 - 議会の時間番組:年6回放映
 - 定例会一般質問ほか放映:ケーブルテレビ・YouTube 配信
- (2) 広聴分科会の取組
 - 「議会報告会」から「議会と語る会」へ (H24 開始 → H28 リニューアル)
 - 課題:自治会離れによる区への負担、多くの住民の意見を聞く場が不足、女性・若者の声が届きにくい、対象団体数減少、住民同士の議論の不足、パンデミック対応の難しさ
 - 新たな取組み:
 - LINE サポーター(R5~R6 試行、課題あり断念)
 - 。 議会カフェ (R7.7月に2度開催、延べ20名参加、好感触)
 - 。 女性模擬議会 (R5.7 開催、女性 11 名が議場登壇)
 - 女性政策サポーター (R6.3~7月に12名、6題の提言書を提出)
- (3) 役割と方向性
 - 議会が住民に情報を伝え、住民の声を聴く 双方向コミュニケーション活動 が重要。
 - 求められるもの: 開催形式の柔軟化・多様化、周知方法の改善と魅力的な発 信。
 - 具体策:少人数意見交換会、住民参加型イベントとの連携、オンライン導入、 事前アンケートや意見募集、YouTube や SNS の活用、参加メリットの明確化。
- (4) 所見(牧之原市との比較含む)
 - 松川町議会の取組は、牧之原市議会の課題とほぼ共通しており、特に住民の 多様な声をどう吸い上げるかが共通の課題と確認できた。
 - 議会報告会を要望する団体に対して個別に実施している点は大変参考になり、柔軟な住民参加の形として有効と考える。
 - また、**広聴分科会による新たな取組み(議会カフェ、女性模擬議会、女性 政策サポーター) **は革新的であり、今後の市議会の取組みを考える上で大 きな示唆となった。
 - 質疑にて「新たな女性議員の立候補の有無」を尋ねたところ、残念ながら出 馬はなかったとの回答であったが、こうした活動が将来的な議員の多様化に 結び付く可能性を強く感じた。
- 2. リニア中央新幹線(飯田市)

リニア中央新幹線 (飯田市)

視察内容

• 飯田市内に建設中の「長野県駅(仮称)」予定地および天竜川橋りょう工事

現場を視察。

• 駅設置に伴う都市基盤整備、周辺交通網との接続計画について説明を受けた。

所見

- リニア中央新幹線の開業により、南信地域と首都圏・中京圏との所要時間短縮が期待される。
- 視察を通じ、近隣市町が駅設置を地域振興の大きな契機として捉えており、 開業後の市町の活性化に強い期待を抱いていることを実感した。
- 駅周辺のまちづくりは飯田市のみならず広域連携の視点が不可欠であり、牧 之原市においても同様にインフラ整備が地域社会に及ぼす影響を考える上 で示唆が多かった。

3. 土岐地球年代学研究所(岐阜県土岐市)

位置づけ:日本原子力研究開発機構(JAEA) 東濃地科学センター 土岐地球年代学研究所(Toki Geochronology Research Laboratory)。

主な機能・研究

- **地球年代学**の先端分析(例:同位体・鉱物年代測定、加速器質量分析(AMS)等)を通じ、**長期的な地質の安定性評価や地質環境の理解**に資する研究を実施。
- 地質の**年代・形成史の解像度向上**は、**活断層活動や地形変化の評価**、長寿命 インフラの**立地・防災計画**の前提データとして有用。

学び(行政への応用の視点)

- 科学データの政策実装:地質・水文データの収集・オープン化、ハザード評価の定量化、公共事業のリスク・ベネフィット説明に活用可能。
- 連携の選択肢:大学・研究機関との包括連携協定や**共同研究(例:地盤・ 斜面安定評価/地下水モニタリング)**により、地域防災・インフラ維持管 理の高度化を図れる。

4. 宿泊:信州まつかわ温泉 清流苑(松川町営)

- 町営の**宿泊・温浴複合施設**。宿泊・宴会・日帰り温泉・レストラン等を併設 し、**観光・交流拠点**として機能。
- **自治体直営施設の運営**に関するヒアリング(指定管理・稼働率、料金体系、スポーツ施設やプール等の維持管理、地域経済波及)を実施(※詳細は追記)。

所見

- 松川町営の宿泊温泉施設「信州まつかわ温泉 清流苑」に宿泊。近年リニューアルが行われており、設備・環境ともに大変優れた施設であった。
- 町営での運営形態は全国的にも稀少であり、地方自治体が自主財源を確保していく上で一つのモデル事例と考えられる。

•	公共性と収益性の両立には課題が多いと思われるが、地域の観光拠点として
	魅力が高く、うまく運営できれば非常に興味深い取組みであると感じた。

L

牧之原市議会議長 様

氏名	石山和生	
八石	∕ПШ/Ш/Т.	

研 修 名	令和7年度 牧之原市議会全議員視察研修
研修の期間	令和7年8月21日(木)~8月22日(金)
研 修 先	 長野県飯田市【リニア駅周辺】 長野県松川町議会 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
研修の目的	(1) 友好姉妹都市親善訪問・交流 (2) 議会への住民参加について

1 長野県飯田市【リニア駅周辺】

長野県飯田市のリニア駅周辺を視察し、静岡県内とは異なりすでに工事が着実に進んでいる様子を間近に見ることができた。市としても新駅開業に非常に大きな期待を寄せており、その思いは案内してくださったガイドの方の言葉や熱量からも強く伝わってきた。

2 長野県松川町議会

姉妹都市交流の一番の目的は、災害などがあった際に助け合える関係づくりだと 私は考えている。交流会を通じて、交流がしっかりできたと考えている。

清流苑という町営の温泉・宿泊施設に泊めさせていただいた。町営であることメリット、そして難しさを議員の皆様から話を聞いて聞くことができた。子生れ温泉の運営について改めて考えることができた。

á	
	3 岐阜県土岐市【土岐地球年代学研究所】
	研修を通じて、放射性廃棄物を安全に地層処分するためには、地下環境がどれほ
	ど安定しているかを長い時間軸で確かめることが不可欠だと学んだ。特に地下水の
	動きが極めて遅いことが重要であり、放射性物質が外へ運ばれにくいという安全性
	の根拠になると理解した。また、C ¹⁴ などの同位体を測定し、地下水が数万年前か
	ら動いていない事実を示すことで、未来の数万年も安定している可能性を予測でき
	ると知った。これまで漠然と「地下に埋める」と考えていたが、実際には岩石や粘
	土、金属容器など多重のバリアを組み合わせ、科学的根拠を積み重ねてようやく成
	り立つ安全性だと理解し、長期的視点での研究の大切さを実感した。
ı	